

三重県の海岸に卵を産むために帰ってきたアカウミガメの「みう」からの手紙を受け取った主人公の「七海」が三重県の海岸をきれいにしようと活動する「ポッチ」と一緒に、県内の海岸漂着物の問題について学んでいく物語です。



オープニング

「三重県の美しい海に異変が!」

美しい三重県の海岸に卵を産みに戻ってきた、ウミガメの「みう」が海岸の異変に遭遇するシーンから物語が始まります。



お伝えしたい
ポイント

私たちが暮らす三重県の海岸で海岸漂着物の問題が起きていることを伝える場面です。子どもたち自身が家族や友だちと出かけたことがある海岸でも起きているのでは?と話合っていたく機会としてご活用ください。

※教材リーフレットには、県民の皆さんにとって馴染み深い海水浴場や海女漁、リアス式海岸など、三重県の海の魅力を掲載しています。DVDの視聴と合わせてご活用ください。

01:30頃

「海岸に流れつく海岸漂着物とは?」

主人公の「七海」が海岸の清掃をするダンダラポッチの子孫の「ポッチ」と出会い、県内の海岸にたくさんの漂着物が流れ着いている現状を学んでいきます。



お伝えしたい
ポイント

海岸漂着物にはどんなものがあるかを紹介します。特に海岸漂着物の中には、私たちが生活の中でごみとして捨てたレジ袋などがあり、身近な問題としてご指導ください。

04:59頃

「海岸漂着物の問題を考える!」

海岸漂着物によって海岸の景観が損なわれている以外に、養殖漁業や自然の生態系など、県内での具体的な実例をいくつか紹介し、様々な面で問題が起きていることを伝えます。また、実際にどれくらいの海岸漂着物があるかを伝えます。



お伝えしたい
ポイント

実際にどれくらいの量の海岸漂着物が流れてきているかを紹介します。三重県内では特に伊勢湾沿岸部に多く、中でも鳥羽市周辺に多くの漂着物が流れ着いていることを紹介する資料としてご活用ください。

※教材リーフレットでは、流れてきている漂着物がどれくらいの量になるかを500mlの水が入ったペットボトルの総重量で紹介しています。

(例) 鳥羽市周辺には、年間に500mlペットボトル1,000万本分の重さのごみが流れ着きます。特に答志島の奈佐の浜では、100mlに196kg分の漂着物があり、ペットボトル392本分になります。30人の学級なら一人ペットボトル約13本分の重さのごみをひろわないといけません。

11:19頃

「海岸漂着物はどこから来るのか?」

伊勢湾周辺のごみ回収の活動や鳥羽市にある答志島の奈佐の浜でのごみの実態調査の見学を通して、なかなか減らない多くの海岸漂着物の発生原因を調べていく場面です。



お伝えしたい
ポイント

実はペットボトルなどの海岸漂着物の発生原因は、私たちの生活の中で捨てられたごみであることを伝えます。町の中で捨てられたごみが河川から伊勢湾に流れ出て、ふたたび県内の海岸に漂着していることをご説明ください。

15:03頃

「私たちにできることは!？」

海岸漂着物の問題は、三重県で暮らしている誰もが関係していると知った「七海」が、海岸清掃など、自分にできることは何かを学んでいく場面です。



お伝えしたい
ポイント

ごみを減らす生活を心がけ、水筒やマイバックの利用の大切さ、ごみのポイ捨てなどをしないことが大切であることを意識してもらえるように導いてください。また、海岸清掃活動などへ協力することの大切さをお伝えください。

※子どもたちと海岸漂着物について何が話合ってください!(※リーフレットに記入欄があります)

- 山や川で、できることの一例/キャンプ(山)や釣り(川)に出かけた時にごみのポイ捨てはしない。
- 町のなかで、できることの一例/ペットボトルなどはきちんとごみ箱に捨てる。お家を出たごみは、ルールを守って捨てる。
- 海岸で、できることの一例/海岸で海水浴や花火などを楽しんだ後は、必ずごみを持ち帰る。

※海岸漂着物の具体的な対策については、チャレンジ1、2としてリーフレットに掲載しています。